

一級自動車工学科・自動車整備科			2026年度 授業計画			
時期	1年B巡	単元	学科	教科名	エンジン構造1B	
科目	自動車工学	教科書等 持参品	三級自動車整備士（総合）		発行日	2026.4.1
総時限	12時限				教科 担当	人見
総時間	19.2時間					仲田
単位数	1					
1. 実務経験のある教員による授業科目 該当						
自動車整備士として、エンジン整備の実務経験がある教員によりエンジンの構造、作動について指導する。						
2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）						
<ul style="list-style-type: none"> ①エンジンの潤滑装置を理解する。 ②エンジンの冷却装置を理解する。 ③エンジンの吸排気装置を理解する。 ④エンジンの燃料装置を理解する。 ⑤バルブタイミングを理解する。 						
3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）						
<ul style="list-style-type: none"> ①エンジンの潤滑装置の構造・機能、及び整備について理解出来る。 ②エンジンの冷却装置の構造・機能、及び整備について理解出来る。 ③エンジンの吸排気装置の構造・機能、及び整備について理解出来る。 ④エンジンの燃料装置の構造・機能、及び整備について理解出来る。 ⑤直列4気筒、直列6気筒のバルブタイミングを理解出来る。 						
4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）						
<ul style="list-style-type: none"> ・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。 ○×、選択肢、記述により100点満点で評価する ・合格点：60点以上 80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満） ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上） 再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。 ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。 						
5. 準備学習						
エンジン構造Aに関する内容を復習し、エンジンの基本的な構造を理解しておく。						
6. 学修時間と単位						
<p>本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。</p> <p>1単位の修得に必要な学修時間の目安は、15～30時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間である。</p>						

